

2023

同友しずおか 7

「入ってよかった」「続けてよかった」「誘ってよかった」
「企業も地域もよくなった！」

VOL.536



私の逸品

サンレイ食品(株)

おいしい笑顔を大切に
～地産地消により新鮮で良質
な食材を提供～

～互いに支えあい、励ましあい、援けあう～
私たちは地域にあってよかったと言われる同友会であり続けます



静岡県中小企業家同友会

同友会で経営者が変わる、社員が変わる、会社が変わる。



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会3つの目的

1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

- 社長はいつも孤独
- 経営の悩みを相談する仲間ができた
- 経営の成功体験しか聞けない
- 失敗談から勇気とヒントをもらえた
- 目の前の仕事に追われる毎日
- 将来の会社のビジョンができた
- 指示待ち社員ばかり
- 自発的な社員が増えた

その答え、
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130

◆静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

◆ 企業づくり ◆

私たちは、関わる全ての人々が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくります

◆ 地域づくり ◆

私たちは、中小企業と地域が手を取りあい、人々の幸せが見える地域をつくります

◆ 同友会づくり ◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の^{きやうじ}矜持と努力を結集し、
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数 1075名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者	氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
ふかさわ ひろき 深沢 広樹	(有)清和電機製作所 電気機器製造業(盤の組立、配線)	富士	笠井 浩	まつもと つよし 松本 剛志	(株)中央水産 水産加工業(水産物の加工、倉庫業、惣菜の製造)	志太	松葉 秀介
さの ともみ 佐野 友美	リンパセラピー®サロン 着付けサロンen サービス業(エステ、リンパセラピー、着付け)	富士宮	三木 綾美	すずき ほしめ 鈴木 肇	(有)鈴木清掃 廃棄物処理業(一般及び産業廃棄物の収集運搬)	志太	塚本和成/ 池原 智彦
なかもやま りょう 中山 良	ugoQue. 動画制作(企業・商品・サービス紹介動画、 人材採用動画、動画マニュアル、動画広告)	富士宮	三木 綾美	いわり たいすけ 岩堀 大祐	(有)いわ堀 米穀小売・卸売業(精米販売)	榛南	小塚 辰巳
しみずち つとむ 清水千津子	清水グリーンサービス(株) 造園業(造園、土木、解体)	静岡	山崎かおり	すずき かつみ 鈴木 勝三	(株)ハウス 不動産業、外構工事業(住宅地用地の売買・仲介、 新築住宅用の外部のデザイン・施工・外観のリフォーム)	浜松	江間 省豪
さかもと よしあき 坂本 祥彰	社会保険労務士法人 さかもと事務所 社会保険労務士	志太	塚本 和成				

名義変更による新名義人(敬称略)

氏名	社名・事業	所属支部	旧名義人	氏名	社名・事業	所属支部	旧名義人
おさき えいしん 尾崎 栄信	(有)リプロ 産業廃棄物中間処理	榛南	尾崎 敦子	くぼ さかけんいち 久保坂謙一	三島信用金庫 金融業	沼津	今泉 清司

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyuからのご確認をお願い致します。



おいしい笑顔を大切に ～地産地消により新鮮で良質 な食材を提供～

サンレイ食品(株) (浜松支部)

専務取締役 三島 一浩氏



三島 一浩氏

安全で安心な食材を 事業の経緯

サンレイ食品(株)は昭和55年12月に浜松市恩地町にて創業。同社は学校給食をはじめ、事務所・お弁当・スーパリーの惣菜などあらゆる食文化において、安全・安心で食べることに喜びを伝えるためにおいしい食材を創業から一貫して提供し続けています。平成3年10月に浜松市河輪町に本社を移転。平成16年6月に一般社団法人日本冷凍食品協会認定工場の指定を受けた後、平成26年3月に、現在の浜松市南区御給町にHACCPに基づ



会社外観

いた設計の本社工場を移転。同年7月に前工場と同様に一般社団法人日本冷凍食品協会認定工場の指定を受けました。現在に至るまでに「良質な製品は良質な原料から」をモットーに日々努力を重ね、成長し続けています。表紙の写真は地域から届いた食材を使ったかぼちゃのロッケです。



社内設備

地産地消と生産者の方とのつながりを大切に 逸品への思い

会員である三島一浩氏(専務取締役)は、「おいしいのは当たり前前、お客様には安心感を届きたい。新鮮で良質なものをお客様に届きたい」と語ります。

そのためにサンレイ食品(株)として心がけていることは、地産地消。だと言います。地元である浜松市、隣接する湖西市において、浜名湖のうなぎの養殖が盛んなことは県外においても有名ですが、同社では、そのうなぎの普段捨ててしまう骨や頭を肥料として生産された遠州浜のサツマイモである「うなぎいも」を使用したロッケを作り、市内の学校へ給食として提供して

いるとのこと。また、全国的にも「地産地消」を実現するために、地元だけではなく全国の生産者の方々とのつながりを重視しているそうです。そのため、ある地方から発送された原料を浜松市にある本社工場で冷凍食品に加工し、ロッケやメンチカツ等のフライ類やハンバーグ等として、それらを産地の学校給食として発送するというところもあるのだそうです。そのようなことをすれば、当然コストはかかりますが、子どもたちの食育とおいしい笑顔につながるために企業として努力しているとのことでした。

貴重な学びの場として 同友会での活動について

同氏は、「会員歴は浅いが、同友会では社外のいろいろな人の考えを聞いて吸収したい」と語ります。それは参加メンバー全員が、それぞれに今後のことについて意見を持ち、考え続けているからだと言います。そして、経営指針の作成や全県フォーラムへの参加なども前向きに検討していきたいと、今後の同友会への活動について意気込みを聞かせていただきました。

取材・記事：大杉卓也氏
(大杉卓也行政書士事務所・浜松支部)

サンレイ食品(株)

〒430-0831 浜松市南区御給町326

TEL : 053-426-1528

URL : <http://sanreifood.com>

創立 1980年12月

社員数 35名

入会年月 2023年4月

事業内容 業務用冷凍食品の製造・販売

時代の流れと共に変化しながら、
自社焙煎のおいしいコーヒー豆を提供

(株)アラビカコーヒー
取締役 高村 憲央氏 (沼津支部)



コーヒーを淹れる高村憲央氏

創業は昭和49年、
第一次珈琲ブームの時代

昭和40年頃から喫茶店ブームとなり、コーヒーの需要がコロンと超えた第一次珈琲ブームが到来した1974年に、ヨシヅコーヒーという会社名で開業をしたのが(株)アラビカコーヒーの始まりです。喫茶店向けにパスタの乾麺や缶詰を卸す業者が増え、食材を卸す業

者が好調だったことから同社を立ち上げ、当初は食品問屋から仕入れた食材を喫茶店へ卸していました。ただ、購入したコーヒーが焙煎したてのものとは比べておいしくないと言われ、自社で焙煎機を購入。自分たちで焙煎したコーヒーを納品するようになりました。味がよくなったことで売上が増えていきました。そして1984年に資本金を増やし、コーヒーの種類

から名前を取ったアラビカコーヒーという名前に社名変更しました。

昭和60年頃になると喫茶店ブームがおり、家にコーヒーメーカーを置いて自宅で飲むのが流行りはじめました。喫茶店向けの売上が減少する中、今後を見据えて沼津の仲見世に店舗を構え、コーヒーの量り売りを始めました。食材やコーヒーの売上が好調で御殿場にも出店し、事業がさらに発展していきました。現社長であり高村憲央氏の父である高村巖氏が、自宅でコーヒーを淹れて飲む人が増えた時代の流れにあわせて、コーヒー豆の店舗直販へ移行したことが成功要因だったと言います。その後、1996年にスターバックスを筆頭に外資系コーヒーショップの参入が相次ぎ、第二次珈琲ブームが始まり、売上が増えていきました。2010年ごろに外資コーヒーショップも飽和して



自社で焙煎するコーヒー豆

コーヒーが下火になり、その後は自宅でコーヒーを飲む人の需要が安定してきていると高村氏は考えます。現在はブラジル契約農園から直輸入したコーヒー豆の卸売も継続しつつ、三島と富士にも店舗を構え、計4店舗でコーヒーの直販を行っています。昨今のコロナ禍で売上は減少しているそうですが、店舗販売の売上アップに力を入れていくと話してくれました。

入会のきっかけは現会員からのプッシュ

現社長の高村巖氏が2016年に同友会に入会、その後2022年に退会し、同友会からは少し離れていましたが、徐々に同友会会員に会ったことをきっかけに、息子である高村憲央氏が新たに入会しました。「まだ会員になって2〜3カ月だが、異業種との交流が刺激になっている」と高村氏は語ります。

今後の経営の課題と同友会との付き合い方

高村氏は今後について、「今後は事業承継の計画をすすめるながら店舗のコーヒー直販を伸ばしていくことを重点的に考えていく。現在、店舗の会員となっているお客様は人口に対して少ないと考えており、どうやったら会社の露出を増やしていけるか、同友会の中で勉強していきたい」と話します。



会社外観

「コーヒーは現在、水の次に飲まれている液体で、世界中に需要があるのでまだ伸びしろはあると思っている。世代交代を含めて精一杯やりたい」と親子で会社を発展させていく決意を語ってくれました。

取材・記事：太田喜貴氏
(株)キラガ：沼津支部

(株)アラビカコーヒー

〒411-0932 駿東郡長泉町南一色186-8

TEL：055-986-6564

URL：https://www.arabicacoffee.co.jp

創業 1974年

社員数 18名 (パート含む)

入会年月 2023年4月

事業内容 珈琲及び食品の販売、飲食店運営(4店舗)、珈琲豆の直販・ネット販売

第37回全県経営フォーラム 記念講演講師

橋本昌子氏(株スパ Patel・石川県中小企業家同友会代表理事)を表敬訪問!



左から宇佐美氏、橋本氏、青山氏、松葉氏

数、店舗数を伸ばしてきたことについて橋本氏は「社長が倒れても企業が存続するために組織化することを前提として創業しました。最初から人を雇用する覚悟があったからここまで成長してこれた」と話します。橋本氏の根幹にあるのは「人を生かす経営」です。社員や地域の人々、つまりグループに関わる人が「その人らしく生きる」を支えていくことが使命だと話します。「日本一親切的な薬局」「日本一のてまりケア」を本気で目指すために取り組んでいるのは「6方良し」の実現です。「6方」は「職員・お客様・運営・世間・地球・未来」であると定義し、指標を作成。現在の到達点

6月16日(金)に青山達弘実行委員長をはじめ4名で石川県金沢市にある(株)スパ Patelを訪問。代表取締役で石川県中小企業家同友会代表理事の橋本昌子氏にお話しを伺いました。橋本氏は(株)スパ Patelを中核として、薬局や介護施設の経営、福祉事業の運営をおこなう「てまりグループ」で4つの会社を経営しています。創業まで薬剤師として20年以上勤務していた橋本氏でしたが自身も病を経験し「自分が働きたい薬局をつくる」と決意。2007年10月に3名で創業し、16年で社員数220名を超える企業に成長させてきました。ここまで急速に社員



(株)スパ Patelの10年ビジョン「サザンクロス計画」



てまりグループ経営指針&経営計画

を確認しながら、常に改善を実施しています。大切にしている言葉は「Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、足元から行動せよ)」。地域課題を「科学性・社会性・人間性」の3つの視点から捉え、世界に羽ばたく事業展開に取り組んでいます。大手ドラッグストアの乱立や個人薬局の減少など決して平坦ではない道のりも、同友会での学びを徹底的に実践し乗り越えてきた橋本氏。「書いたことは必ず実現する」と社員と共に描いた10年ビジョン「サザンクロス計画」を実現するため走り続けています。

全県経営フォーラムは11/15(水)の開催です!メインテーマは「磨け!輝け!未来を決めるのはあなた!」、自社の強みや地域の魅力をさらに磨きあげ、輝く未来を創造していきましょう!ご参加お待ちしております!

第26回女性経営者全国交流会 in 福岡

新しい時代の創造

共に生かしたい、育みたい進化する未来へ!

6月22日(木)〜23日(金)、第26回女性経営者全国交流会 in 福岡がリアルとオンラインで開催され、全国から907名(うち静岡同友会16名)が集いました。

〈参加者感想〉

なんと目まぐるしくも学びの多い、素晴らしいご縁を頂いたのだからと全身で感じた2日間でした。私自身が県の経営指針を創る会に参加していることもあり、「ありがとう、経営指針」がサブタイトルの第一分科会(報告者:長崎海産(株)三宅ちはる氏・長崎同友会)に参加しました。優しさあふれ、大きなピンチをいくつも乗り越えてきたとは思えない印象を受けましたが、経営指針や、判断の根底に社員の幸せを思う気持ちがあつたことが何よりの強さであり、今に至る大きな足がかりになっているのだと感じました。そのぶれない利他の心が社全体にしみわたっている様子が感じられました。その後のバズでは、社員の幸せや地域の活性化など、自社に留まらない10年先のありたい姿が語られ、これから承継される側の私には、経営者としての在り方を刻む貴重な経験となりました。

内山智美氏
(株)腕コーポレー
ション・沼津支部



静岡からの参加者

第20期経営指針を創る会が開講

14名が自社経営と向きあい、 経営指針作成への第一歩を踏みだす

6月10日(土)へガサート 6月11日(日)静岡駅前会議室 L1NK

第20期経営指針を創る会(以下、創る会)が14名の受講生とともに開講し、第1講は6月10日(土)～11日(日)の二日間で開催されました。創る会では、半年間をかけて会社を発展させるための羅針盤である「経営指針」(経営理念・10年ビジョン・経営方針・経営計画)を、受講生とスタッフ(修了生)が真摯に議論し学びあいながら作成します。第1講は二日間を通して、各社の経営課題・悩みについてのバズセッションや、修了生から、労使見解への考え方、経営理念・指針の自社実践についての報告がありました。受講生それぞれが潜在化している課題に気づき、次回にむけた学びを持ち帰りました。受講生からの、創る会への意気込みと感想をご紹介します。

リアルな本音をぶつけ合える仲間でありライバル!

「私達は仲良しこよしの友達をつくりに来たんじゃない、自身と自社を成長させるために来たのです。我々の学びも挑戦もすでに始まっています。今後、経営指針で10年ビジョンを創る以上、10年間切磋琢磨し、鼓舞しあえる仲間であり、ライバルでいましょう!」2日目の最後に、私が同期の皆

さんに向けて言った一言です。会社の規模も年齢も同友会歴も関係なく、前向きに思いを話してほしいと思います。そして参加者各自のここに至るまで歩んできた人生や、お互いの意見から学びあいたい



です。この2日間で、報告者の皆さんから経営指針を創る意義や、創ってからの取り組みを聞き、現在と未来に沢山の希望を頂いたので、全力で最後まで走り抜けたと思います。私自身、初日で悩みの最深处を見抜かれ、射貫されました。「覚悟が足りないんじゃない?」覚悟がないのではなく、足りない。私はこれを書いている今、すでに未来に向けて歩みを踏み出しています。お礼は結果を出してからさせていただきます!

遠藤 光彦氏

(株)ES 放課後等デイサービスなごころ 富士宮支部

中小企業魅力発信月間キックオフ行事 憲章・条例活用推進シンポジウム 条例に基づく地域連携の取組を共有し、 企業づくりと地域づくりの推進をめざす

6月2日(金)

本行事は中小企業家同友会全国協議会(以下、中同協)が主催で中小企業振興基本条例活用の経験や教訓を交流し、憲章条例運動をさらに広げることを目的として例年開催しています。今年度は完全オンラインにて全国から380名、静岡同友会からは9名が参加し、学びあいました。はじめに広浜泰久中同協会会長より「地域課題を自社の課題として取り組むことが重要。条例制定が進む中で今後は条例の活用を推進する活動を展開していきましょう」と挨拶がありました。その後、角野然生中小企業庁長官をはじめ、中小企業団体、労働団体から挨拶をいただきました。

続いての事例報告では宮城県南三陸町と香川県三木町の条例制定に向けた行政との連携や条例に基づく取り組みを報告。その後のグループ交流では参加者の地域や企業状況、地域活性化に向けた取り組みを共有しました。静岡県内では現在、静岡県と18市4町で条例が制定されています。ぜひ、条例を活用した行政との連携を進め、地域課題を自社の課題として捉え企業づくりに活かしていきます。

当日の参加者からの感想をご紹介します。

南三陸町の震災後の取り組みを聴いて

東日本大震災から12年。あの時、私は東

京出張中で大きく揺れるビルの中にいました。歩いて避難する途中、駅構内のモニターから津波の映像が目飛び込んできました。あの時のショックは今でも忘れられません。

報告者からの、「全て流された」の言葉に心が痛みました。南三陸町では関係者が集まって「円卓会議」が設けられたようですが、その時の地域課題とはどれほどのことだったのだろうか。私には想像が付きませんが、自分達で立ち上がり、意見交換をし、積極的に関わることの重要性を学びました。人々の負けない心や、おもいやりの気持ちを持って協力することで早期復興に繋がったのではないかと思います。

今回のお話を聴いて、人の命を守る、町を守る、そこに企業としての役割と使命があるということを忘れずに経営していかなければならないと痛感しました。フォーラムの最中、携帯から台風2号による緊急避難警報が鳴り響き、同報無線からも避難指示がありました。社員の命を守ることを最優先と考え、バズの最中ではありましたが、社員に帰宅指示を出しました。適切な判断ができたことに感謝しています。

焼津市では、条例推進に基づく「意見交換会」が始まりました。魅力的なまちづくり創出のために地域課題に向き合い、さらなる発展を目指します。

山田尚子氏(株)サンロフト・志太支部

役員は楽しい！役員になって最大の「役得」を実現しよう

県役員研修会を開催 38名の理事・支部役員が同友会の歴史と役員意義を学び合う

6月29日(木)、レイアップ御幸町ビルをメイン会場にオンラインを併用して県役員研修会を開催しました。

「同友会に入っただけでは意味がない、積極的に参加してこそ得るものがある」と耳にする機会が多いのではないのでしょうか。今回の役員研修会は、同友会の歴史と理念を学び、役員を担うことの意義やどのように同友会を自社経営に活かすのか、役員の役得はどこにあるのか。杉村征郎氏(杉村精工(株)・県代表理事)と養威頼氏(アサギリ・県代表理事)が登壇し、その後グループ討論を実施しました。



同友会の歴史を伝える杉村氏

の熱い思いが込められていて、その理念に次ぐ重要な考え方が労使の見解です。この精神のもとに続けていく経営指



自身が感じた「役得」を伝える養氏

針成文化の運動があったからこそ静岡同友会が良い方向に変わり続けてきました。同友会らしさの根幹をなすものは人間尊重の精神、

そして謙虚な学びあいです。同友会運動は人が生きる社会をつくる大切な運動です。ともに平和で豊かな社会をつくっていきましょう」と伝えました。

続いて、養代表理事からは役員を担うことの意義を、自社経営と同友会の関係を記した不離一体シートをもとに報告しました。「先輩から同友会への入会は、テーパークの入場券。積極的に学ばなければ得るものはないです」と言われたことがあります。学ぶ機会はどこにあるのか。支部活動もそうですが、特に機会があるのは役員です。役員会は運営の協議だけでなく、自社課題解決の実践の場としていくのが役員会を開催する意義です。私は同友会で多くの役を担わせて頂きました。青年部時代は自身の課題であった『数字の見方』を解決するために勉強会を積極的に開催しました。支部長時代には工場の問題が起きたとき、『支部長の会社が地域とむきあわないわけにはいかない』という思いで経営にむきあってきました。役をひきうけることは確かに大変な側面があります。しか

し、役をひきうける期間を、企業づくりを学ぶ最大の役得が得られる期間と捉えるのが重要だと思えます。学びも実践も一人ではできません。だからこそ、同友会では仲間づくりにも力をいれています。増強は経営者ができる最大の地域貢献です。同友会の役を楽しみ、自社に活かすものを掴む機会にしてほしいと思えます」と伝えました。

その後のグループ討論では活発な意見交換がされました。「歴史を学ぶ大切さを感じた」「運営にこだわり過ぎず、近況報告を行い、自社経営に活かす場にしていききたい」「役をひきうけることで全支部の活動に参加しやすくなり、学ぶ機会が増えた」「これも役得」「同友会について学ぶ機会を増やしていきたい」「同友会に楽しく行きたいと思える場にする。これは会社づくりにもつながる」「不離一体シートを活用し、会員間で活用したい」など意見が出ました。

最後に井上代表理事から「焦土の中から中小企業家が立ち上がり、自主・民主・連帯の精神を軸に据えた同友会が生まれました。そこに同友会の、中小企業家の矜持があると感じます。私たちは先輩がつくってきた言葉を使って運動に関わっています。同友会には、50年の歴史が綴られた書籍があります。歴史からなぜ今があるのかを学ぶことが大切ではないでしょうか。委員長、支部長、役員と事務局員が忌憚なく意見を交わし、また、何を聞き、感じて、持ち帰り、伝えるのか、楽しみながら学び、同友会運動を発展させていきましょう」と挨拶。役員それぞれが同友会の歴史と役得の意義を学びあう機会となりました。

史と役得の意義を学びあう機会となりました。

参加者感想

今年度よりリアルに皆さんとお会いできて、少し緊張気味ではありましたが、やっぱり直接触れ合うことの良さと大切さを実感しました。

私が参加したEグループでは、役を受けたがらない人が多く、「役員は楽しい！」の反対の声を聞くことが多いとのこと、どの支部でも共通することなのだと感じました。「役を担うことは楽しい」ということを学ぶ日ということもあり、今日ばかりは発表の役を務めました！すると不思議なことに、バズに熱中でき「何を持ち帰りますか？」との質問にも即答できました。それは養代表の報告資料「不離一体シート」です。自身の向上の歴史が刻まれたそのシートを是非私も作成したいと思いました。いわば自分の「のりしろシート」ですね。これを使って、「同友会の語り部」になると最高だと思いました。新会員の勧誘にも使えると思います。今抱えている自分の課題が一気に解決した気分になり、とても爽快でした。さらに同友会の歴史ももっと学びたいと思いた。大変有意義な研修会を開催していただき関係諸氏の皆様に、御礼申し上げます。



佐藤 義幸氏
(松本工業(株)・富士支部長)

7月 19日(水)	伊東例会 (19:00 ひぐらし会館&ZOOM) 沼津例会 (19:00 プラサヴェルデ&ZOOM) 県青年部主催ゴルフコンペ (8:00 富嶽カントリークラブ)
20日(木)	富士例会 (19:00 ロゼシアター) 榛南例会 (19:00 浜岡グランドボウル) 中遠例会 (19:00 ワークピア磐田&ZOOM)
21日(金)	第5回全県経営フォーラム実行委員会 (17:00 ZOOM) 県政策委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM) 県障がい者問題委員会主催 東部地区関係機関との意見交換会 (19:00 プラサヴェルデ)
24日(月)	三島例会 (19:00 三島商工会議所&ZOOM)
25日(火)	県例会企画委員会 (18:30 ZOOM)
26日(水)	志太例会 (6:00 A-style)
27日(木)	県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM) 県組織増強委員会 (17:30 同友会事務局&ZOOM)

28日(金)	同友会オリエンテーション パートⅠ (18:00 同友会事務局&ZOOM)
29日(土)	第20期経営指針を創る会 第4講 (13:00 同友会事務局)
8月 1日(火)	中小企業庁による講演会&学習会 (15:45 Bivi藤枝) 県広報情報化委員会 (19:00 同友会事務局&ZOOM)
3日(木)	正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
4日(金)	富士宮例会 (18:30 志ほ川バイパス店&ZOOM)
9日(水)	御殿場納涼例会 (19:00 ミートショップ富士竹 BBQ場)
10日(木)	浜松例会 (19:00)



《 あなたのスケジュールノートに必要事項をご記入ください 》

進を周知していきます。



共同宣言する県知事と各機関の代表者

6月7日(水) 静岡県庁にて、「パートナーシップ構築宣言の普及・促進と実効性向上にむけた共同宣言式」が執り行われ、同友会からは松葉代表理事が出席しました。共同宣言式には、静岡県と8つの経済団体、労働組合、国の計13団体の代表者が一堂に会し共同宣言として発出しました。宣言の目的には「相互に連携・協力を」「パートナーシップ構築宣言」の取組みを通じて、労務費、原材料費、エネルギーコスト等の上昇分を適切に価格へ転嫁する機運を醸成し、適正な取引を促進すると共に、サプライチェーンの維持・強化、中小・小規模企業事業者の付加価値や稼ぐ力の向上、賃上げに繋げることに、地域経済の活性化に寄与すること」と謳われていきます。

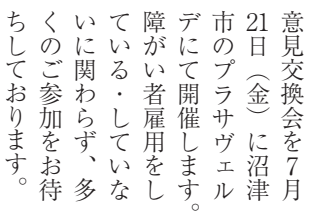
「パートナーシップ構築宣言」共同宣言式
同友会からは松葉代表理事が臨席



からは「理念経営の大切さを改めて実感した」と感想を頂き、柴田氏のまっすぐな想いが参加者に伝播したイントロセミナーとなりました。

オプザーバーや新会員にむけて同友会を知って頂く機会として、また仲間との交流の場として毎月開催しているイントロセミナー。6月は住宅設備の修理やリフォームを行う柴田和哉氏(株ヤマサン・静岡支部)が報告しました。会社員時代にやっていたことを生かして2015年に会社を立ち上げたものの、自分一人が暮らせばいいという夢も希望もないスタートだったと柴田氏。しかし、会社経営を学びたいと同友会に入会し、経営指針を創る会を受講、経営理念をつくることで「自社が何をやる会社か」明確になったと言います。「株ヤマサンは人が元気になれるような行動をする会社である」と理念がはつきりしたことで、行動に迷いがなくなり、失敗した際も必要以上に自分を責めることがなくなった」と語り、最後に「同友会の人たちのおかげで、いい会社になることは、社員とどうやったら幸せになれるか哲学することだと考えられるようになった。同友会に入って良かった」と伝えました。当日参加した新会員・オプザーバー

6月イベントセミナー
入ってよかった！ 続けてよかった！
同友会があるから今の自分がある！
6月30日(金) 同友会会議室
参加者15名



市は「理念経営の大切さを改めて実感した」と感想を頂き、柴田氏のまっすぐな想いが参加者に伝播したイントロセミナーとなりました。

6月16日(金) 障がい者問題委員会中部地区関係機関との交流・意見交換会を開催し、会員と行政、特別支援学校教諭、障がい者就労支援機関から合わせて16名が参加しました。意見交換会は毎年、相互の課題や取り組みを共有しあうことで、障がい者雇用の促進や障がい者理解に繋げていくことを目的に開催しています。当日は、冒頭に西鉢亮貴障がい者問題委員長(株富士山ドリムビレッジ・富士宮支部)より「コロナ禍によりオンライン開催していた意見交換会、3年ぶりに会場で集まることができました。ぜひリアルならではの交流を深めていきましょう」と挨拶があり、その後「障がい者雇用について」をテーマに幅広く意見交換しました。特別支援学校や会員経営者からは「特別支援学校卒業後の企業への定着率を上げるために、生徒が就学中に社会に出て学ぶ場を増やすことが大切なのではないか」などの意見があり、障がい者が生き生きと働ける社会の実現にむけた、学び多い意見交換会となりました。次回は、東部地区意見交換会を7月21日(金)に沼津市のプラサヴェルデにて開催します。障がい者雇用をされている・していないに関わらず、多くのご参加をお待ちしております。

県障がい者問題委員会 中部地区関係機関との意見交換会
障がい者が生き生きと働ける社会の実現にむけて
同友会会議室